

市役所平和のエリア前 宇治市民平和記念集会が開催 戦後80年 憲法に掲げられた恒久平和 核兵器廃絶平和都市宣言に誓う

世界ではいま、ロシアによるウクライナ侵略、イスラエルのパレスチア・ガザの虐殺、同国によるイラン攻撃など、武力攻撃が国土を破壊し人々の命を奪っています。ガザでの死者は6万人を超え、うち18,592人は子ども、9782人は女性です（7月30日時点）。

戦後80年を迎えた8月15日（金）、第63回宇治市平和祈念集会が、宇治市役所北側に設置されている『平和の鐘』『平和の像』（平和エリア）で、開催されました。

この平和エリアには、広島、長崎から寄贈された被爆の石、沖縄名護市から贈られた戦跡の石も展示されています。

毎年、市内の小・中学校の生徒が、平和訪問団として広島・長崎に訪問。今年は長崎に12名が参加し、訪問団代表して、御歳山小学校の生徒が、「核兵器廃絶 平和都市宣言」（右掲載）を朗読しました。平和祈念集会には、100人以上が参加し献花。核兵器廃絶 平和への誓いを新たにしました。

市平和都市推進協議会会長の松村市長は、「平和が脅かされ多くの命が奪われている」と、ウクライナ戦争、イラン攻撃について「一日も早く事態の平和的な解決」を強く望んでいると挨拶。しかし、イスラエルがガザで行っている暴



核兵器廃絶平和都市宣言

真の恒久平和は、人類共通の念願である。

我々は世界最初の被爆国民として、核兵器の恐ろしさを身をもって体験している。この地球上に再び広島、長崎の惨禍を繰り返してはならない。その為にあらゆる国の核兵器の廃絶と全面軍縮を全世界の人々に訴えるものである。

日本国憲法に掲げられた恒久平和の理念を市民生活の中に生かし、子々孫々に継承するため、ここに核兵器廃絶平和都市たることを宣言する。

昭和62年10月8日 決議 宇治市議会

昭和62年10月16日 告示 宇治市

力と飢餓の虐殺攻撃については一言も述べませんでした。

米不足 国の在庫量15万トンまで減少 農家への所得補償・価格保障を

米不足は、一昨年、昨年に続き今年も深刻で、3年連続です。政府の備蓄米は、通常なら100万トンの在庫量が、23～24年産が各2万トン、21年産が1万トン、20年産10万トン（日本経済6月20日付）で、わずか15万トンしかありません。

石破首相は、米の増産に踏み出すと表明し、大規模農業の推進を打ち出しています。しかし、大規模化は、機械の大型化や雇用者の増員などの経費も大

きくなり、小規模農業より収益は低くなります。日本の地形にあった中小家族農業の支援が必要です。

しかし、米農家は20年間で3分の1以上激減し53万戸。7割以上が70歳以上です。

宇治市でも、農林水産統計年報（2019～20年）では、就農人口198人中、65歳以上は111人。そのうち「5年以内に農業経営を引き継がない、確保していない」が5割以上となっています。

トランプ関税15%。農産物の輸入が拡大されようとしています。所得補償、価格保障で農家と消費者を守る対策が必要です。

